

令和元年度後期始業式 式辞

現在ラグビーワールドカップ日本大会が行われています。世界三大スポーツイベントはオリンピック、サッカーW杯、ラグビーW杯といわれているくらい、ラグビーは世界的に有名なスポーツです。

4年前イングランドで開催されたラグビーW杯で日本代表は優勝候補の南アフリカに勝利し、予選リーグで3勝を挙げ話題を呼びました。この年予選リーグで3勝を挙げたにもかかわらず決勝トーナメントに進出できず、世界から「最強の敗者」と賞賛されました。予選リーグで3勝をあげたにもかかわらず決勝トーナメントに進出できなかったのは史上初だったようです。

4年前この日本代表が南アフリカに勝利したすごさは、サッカーでたとえれば、前評判的にJ2のチームがイングランド代表に勝つこと、野球でいえば、県大会ベスト4の高校生チームがソフトバンクに勝つことだったり、ドラゴンボールでたとえると、ヤムチャがセルに勝つこと、などと例えられ、当時話題になりました。

当時のエディ・ジョーンズヘッドコーチは、「優れたテクニックと戦略で勝負する」日本ラグビーを、日本人らしさを生かすラグビーに変え3勝をあげたそうです。それは、日本人が外国人にはない忍耐力を持ち、諦めない姿勢から来る勤勉さを備えていること、体格が小さい故に機敏に動け、低い姿勢でタックルに入れるという日本人としての強みを生かす戦い方を徹底し、超攻撃ラグビー（当時ジャパンウェイ）を選手に伝えました。

エディ・ジョーンズコーチを引き継いだ、現在のヘッドコーチのジョセフコーチは、自分たちの信念を貫き、日本ラグビー史上最も過酷といわれた猛特訓を行いながら、試合に向けて時間をかけた準備をしてきたと話しています。それは、相手を上回るタックルを高い成功率で粘り強く続けたことや、リスクを恐れずに状況判断しながら大胆に攻めることなどを続けたことで、世界ランク9位の日本が過去9戦全敗のアイランドに勝利できた一因といわれています。

主将であるリーチマイケル選手は「勝ちたいというメンタルと、勝てるという自信が一番の勝因だ」ともいっています。

このラグビー日本代表の戦いは、私たちが普段生活している中で、困難なことから逃げずに、その困難をどうクリアしていくか、そのためには準備が必要なこと、チームで乗り越えることの大切さ、私たちの強みをどう生かしていくかなど多くのことを学ばせてくれる気がします。4年前のワールドカップに出場するまでの日本代表の成績は、1勝21敗2分けという惨憺たるものだったのが、4年前に3勝、今大会では現在2勝、負けなしと世界で通用するチームに変わってきています。

夏休み明けの8月の全校集会では、体育祭では勝ちにこだわってほしいと話しました。勝つという思いが、工夫をうみ、チームワークを育み、自分の能力を鍛えることになるということです。今学期は文化祭や邇摩高フェアなど大きな行事があります。ぜひ高い目標を持って、皆で協力して挑戦してください。そうした中で皆さんがまず第一に勝ちに行くのは日々の授業であり、部活動などの日常的に行われる学校生活です。この日常の生活を勝ちに行き達成感を体感することが、将来の進路や社会人としての資質・能力につながっていきます。

私も高い目標を持っています。私の校長としての契約はあと1年半ですので、この間に邇摩高校を勝たせること、そこで学ぶ生徒を勝たせることが私の仕事です。一緒に頑張っていきましょう。